

## ばあば先生

伊藤 遙人<sup>いと うらひと</sup>

「遙人、コロナで学校お休みだつて。」

緊急事態宣言がでて、ほとくの小学校も休校になった。今年の初めにおじいちゃんが大きな病気をして入院し、おばあちゃんもかん病していたからほくはお母さんが仕事に行っている間、ひいおばあちゃんと過ごす事になった。ほくは、ひいおばあちゃんの事を「ばあば」とよんでいる。ばあばは82さい。少し背中が曲がっているけど、朝早く起きて夕方まで動いているとつても働きの者。ほくが行くと遠くの方からいつも

「はるくーん。」と大きな声でよんでくれる。毎日まず畑に行く。

「この場所は君にあげるで土をたがやしてうねを作つてじゃがいも植えるかね。」

ばあばは野菜名人。ほくはタネイモを半分に切つて土に植えた。とちゅう失敗したりどろだらけになった。お母さんなら「もう。服よござんでよ。」とか言うけど、ばあばはいつも笑つて、いいよ。いいよ。と言つてくれる。ばあばとは他にも梅ジュースを作つたり、一緒に買い物に行つたり、おじい

ちゃんの病気が良くなるように毎日お不動さまをお願いに行つたり、時々ボールけりもしてくれた。ばあばの家の縁側でおやつを食べたりもした。

「風が気持ちいいね。」

つてばあばと食べるおにまんじゅうは最高においしかった。休校が長くてほとくの植えたじゃがいもが取かくできる時期になった。もちろん、取かくしたじゃがいもは一番にほくとばあばで食べた。おじいちゃんにも早く食べさせてあげたいなと思つた。学校が始まつて今はちよつと短い夏休み。おじいちゃんの手術も成功して家に帰つてきた。学校がある日も夏休みの今もほくは毎日ばあばと一緒に畑へ行っている。きゅうりやナスに水をあげるのがほとくの仕事。おじいちゃんも畑に見に来てくれた。ほくはみんなが元気でうれしい。ステイホームでみんなは家にいたから白かつたけど、ほくはまっ黒。ありがとう、ばあば。ほくにいろんな事を教えてくれて。長生きしてね。